

## 第 16 回 再生普及行動計画ワーキンググループ

日時：平成 21 年 10 月 19 日(月) 18:30～20:00

場所：釧路地方合同庁舎 4 階 共用第二会議室

### ----- 議事次第 -----

1. 開会
2. 議事
  - 1)再生普及行動計画の見直しについて (これまでの動き)
  - 2)現行計画の評価について
  - 3)次期計画について
  - 4)今後のスケジュールについて(案)
3. その他
4. 閉会

### ----- 配布資料一覧 -----

- ・ 当議事次第
- ・ 再生普及行動計画ワーキンググループ名簿
- ・ 第 16 回再生普及行動計画ワーキンググループ出席者名簿
- ・ 資料 1-1 第 1 期行動計画(2005～2009 年度)の評価(案)
- ・ 資料 1-2 第 1 期行動計画(2005～2009 年度)章別評価(案)
- ・ 資料 1-3 <参考>再生普及小委アンケート、各小委員長ヒアリングでの指摘事項等
- ・ 資料 2-1 釧路湿原再生普及行動計画 2010-2014(素案)
- ・ 資料 2-2 釧路湿原再生普及行動計画 旧計画と新計画(素案)対応表
- ・ 資料 3 今後のスケジュール(案)

#### [参考資料]

釧路湿原再生普及行動計画 応募取組みの分類(2005 - 2008)

## 再生普及行動計画ワーキンググループ名簿

### <個人>

金子 正美 (酪農学園大学環境システム学部地域環境学科教授)

清水 信彦

新庄 久志 (釧路国際ウェットランドセンター主任技術員・環境ファシリテーター)

### <団体>

NPO 法人釧路湿原やちの会

釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会

釧路市民活動センターわっと

釧路シャケの会

釧路武佐の森の会

こどもエコクラブくしろ

ボランティアネットワーク・チャレンジ隊

### <関係市町村>

釧路市 釧路町 標茶町 弟子屈町 鶴居村

### <関係行政機関>

国土交通省北海道開発局釧路開発建設部

林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

北海道釧路支庁

北海道教育庁釧路教育局

### <ワーキンググループ事務局>

環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所

財団法人北海道環境財団

## 第 16 回再生普及行動計画ワーキンググループ 出席者名簿

### < 委 員 > (出席者 50 音順)

氏 名	所 属
大西 英一	釧路武佐の森の会
尾村 和男	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会
金子 正美	酪農学園大学環境システム学部地域環境学科教授
小杉 和寛	釧路シャケの会
近藤 一燈美	こどもエコクラブくしろ
佐竹 直子	ボランティアネットワーク チャレンジ隊
清水 信彦	(個人)
新庄 久志	釧路国際ウィットランド センター主任技術員・環境ファシリテーター
成ヶ澤 茂	釧路市民活動センターわっと

### < 再生普及小委員会 委員 >

氏 名	所 属
高橋 忠一	(個人)

### < 関係市町村 >

氏 名	所 属
菊地 義勝	釧路市環境政策課 湿地保全主幹
佐藤 大輔	鶴居村商業課 商工観光係

### < 関係行政機関 >

機 関 名	出席者氏名
国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課	中津 隆文
林野庁北海道森林管理局 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター	中島 章文
北海道釧路支庁地域政策部環境生活課	石井 弘之

### < ワーキンググループ事務局 >

機 関 名	出席者氏名
環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所所長 国立公園・保全整備課課長補佐 釧路湿原自然保護官	出江 俊夫 伊藤 俊之 露木 歩美
財団法人北海道環境財団 企画事業課課長	久保田 学 内田 しのぶ

## 第 1 期行動計画（2005～2009 年度）の評価（案）

2009年10月19日  
再生普及行動計画WG

### 1 経緯

釧路湿原自然再生協議会では、「釧路湿原自然再生全体構想」(2005年3月)に沿って、釧路湿原の自然再生にかかる環境教育や市民参加を一層推進するために、2005年6月に「釧路湿原自然再生普及行動計画」(以下、「行動計画」)を策定した。

行動計画は、多岐にわたる課題に対し、「できる者」が「できること」から着手することを旨とし、事務局が毎年度の具体的な取組を「ワンダグリンダ・プロジェクト」の名称で募集してとりまとめ、情報発信してきた。

行動計画は概ね5年間を対象としており、5年目にあたる今年度は、これまでの評価を行い、次の5年間に向けた方向性を明らかにするために、以下の手順で所要の検討を行った。

- 4月24日 第15回行動計画ワーキンググループ（改訂についての意見交換）
- ～7月 小委員会メンバーへのアンケート、各小委員長ヒアリング実施
- ～9月 小委員長、座長との方針調整、事務局による素案作成作業
- 10月19日 第16回行動計画ワーキンググループ（改訂行動計画素案の検討）

今後の予定は以下のとおり。

- 10月下旬 協議会構成員への意見照会
- 11月中旬～ 第17回行動計画ワーキンググループ（改訂行動計画案の検討）  
第14回再生普及小委員会（改訂行動計画案の検討）
- 12月～ 第15回釧路湿原自然再生協議会（改訂行動計画の承認）

### 2 実施状況と4年間の総括

#### (1) 実施状況

2008年度までの4年間に、のべ142団体・個人による275件がワンダグリンダ・プロジェクトに参加した。各年度の参加数合計は、表1のとおり。

表1 ワンダグリンダ・プロジェクト参加状況

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	<参考> 2009年度 応募数(8/31現在)
参加団体数	33	31	36	42	43
参加件数	69	60	73	73	75

## (2) 成果

行動計画の実施により、釧路湿原をとりまく多種多様な活動やそれらの担い手の存在が情報として集約され、見えるようになった。こうした活動の集積は、一つのフィールドとしては質・量ともに国内屈指のレベルに達していると思われる。

折り紙やコンサートによる協力などに見るように、自然再生や環境保全の枠にとどまらず、幅広い切り口で人々と湿原との接点が増えてきており、特に、これまで湿原に直接関わっていなかった分野の活動や人の参画を得ることができた。参加者間の交流や事務局のコーディネート等も有効で、新たな活動や参加の機会を創出することができた。

以前と比較して、湿原や自然に関心を持つ人は確実に増えてきていることが参加者の実感から伺える。参加者は、湿原を楽しみながら体験的に理解していく活動の有効性や、こうした活動をさらに広げていく可能性について、手応えを感じている。

常設事務局を置くことで、情報収集、提供、相談、コーディネート等を安定して行うとともに、それらの情報や経験を蓄積させることができ、部分的ではあるが「人、施設、地域のネットワーク」の拠点機能を担うことができた。

## (3) 課題

湿原に関する「関心」、「気づき」、「学び」をもたらす活動はある程度定着しているが、自然再生への「参加」、「行動」を引き出すにはなかなか至らず、そうした機会の提供を拡充する必要がある。

自然再生そのものの動きや情報が地域で十分に共有されているわけではなく、「関心」、「気づき」の機会についてもさらに拡充する必要がある。

自然再生事業に対する地域の理解は未だ十分ではなく、これを深める役割を強化する必要がある。

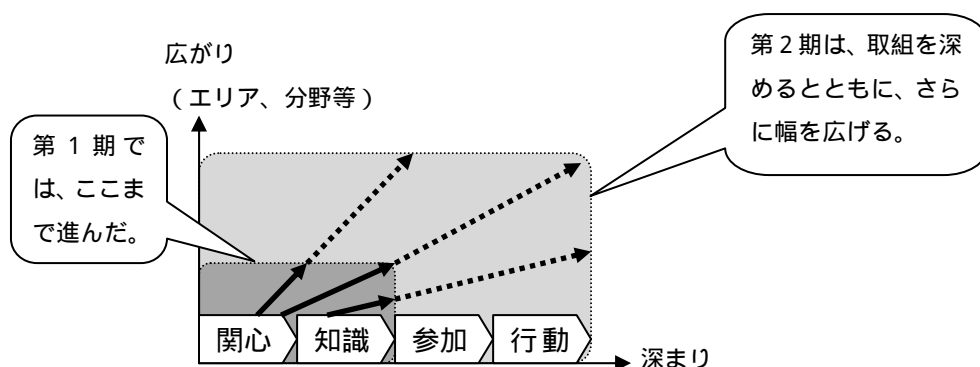
## 3 総括と今後の方向性

第1期計画では、湿原への関心を広げること、知ってもらうこと、関わる人を増やすこと等を中心に取り組んできた。その結果、人々と湿原の接点は広がり、また、取り組む人や主体の範囲も目に見えて広がった。

次は、この資産を活用して、もっと関心を持つ人を増やす（裾野を広げる）こと、関心、知識から、参加、行動につなげる（次のステップに深める）ことが目標となる。（図1参照）

加えて、農業や観光等、地域の産業の参画を得ていくことが必要であり、湿原と流域の人々とのつながりをつくり、湿原（自然）と一緒に暮らしていく生活文化の醸成を目指していくことを長期的な目標としていきたい。

図1 次期計画が目指すもの

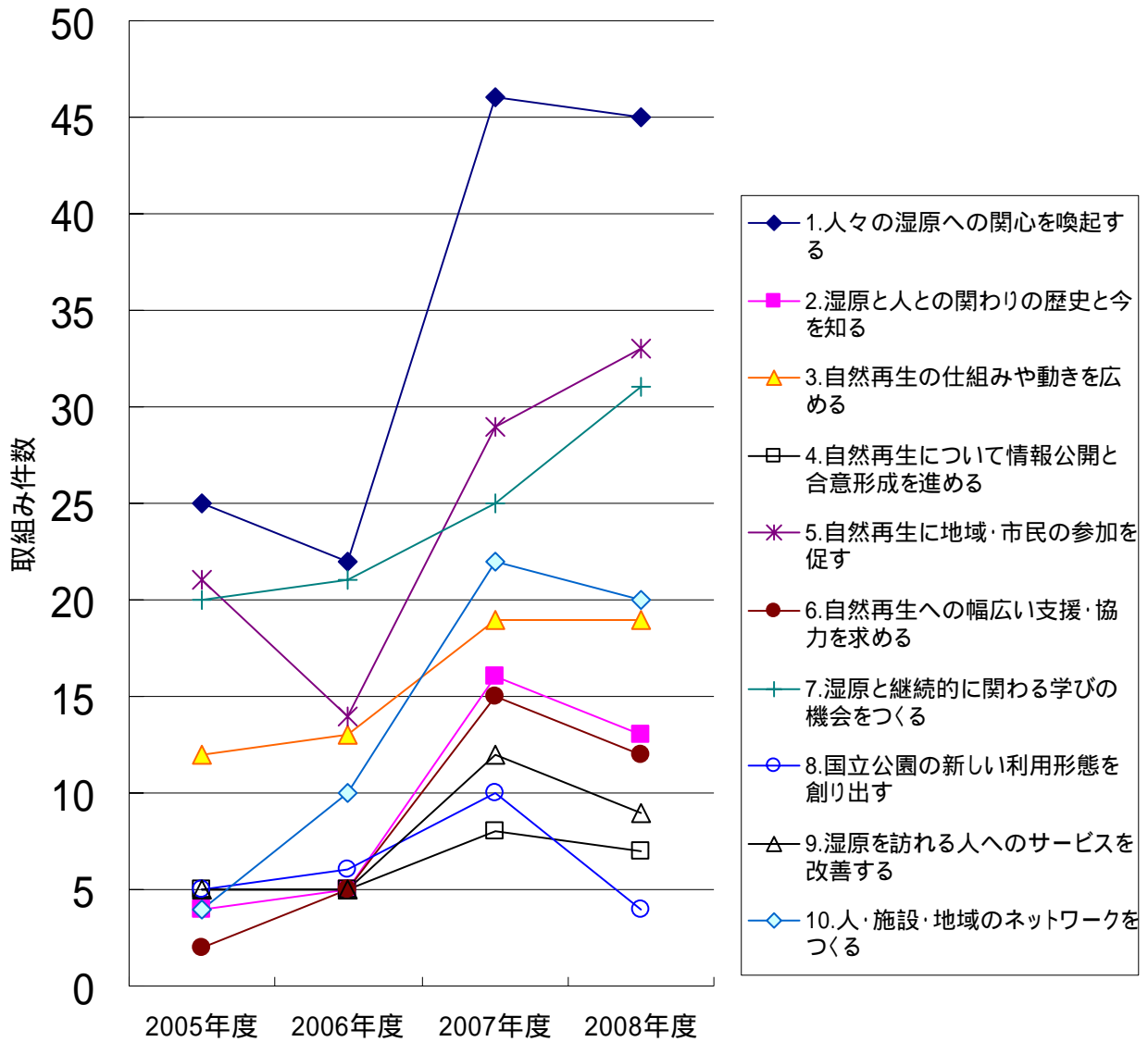


これらを実現するための仕組み（ツール）として、協議会としての行動計画に、協議会と内外の人・主体をつなぎ、広く誰でも参加できる開かれたプログラムである「ワンダグリンド・プロジェクト」を実施する。

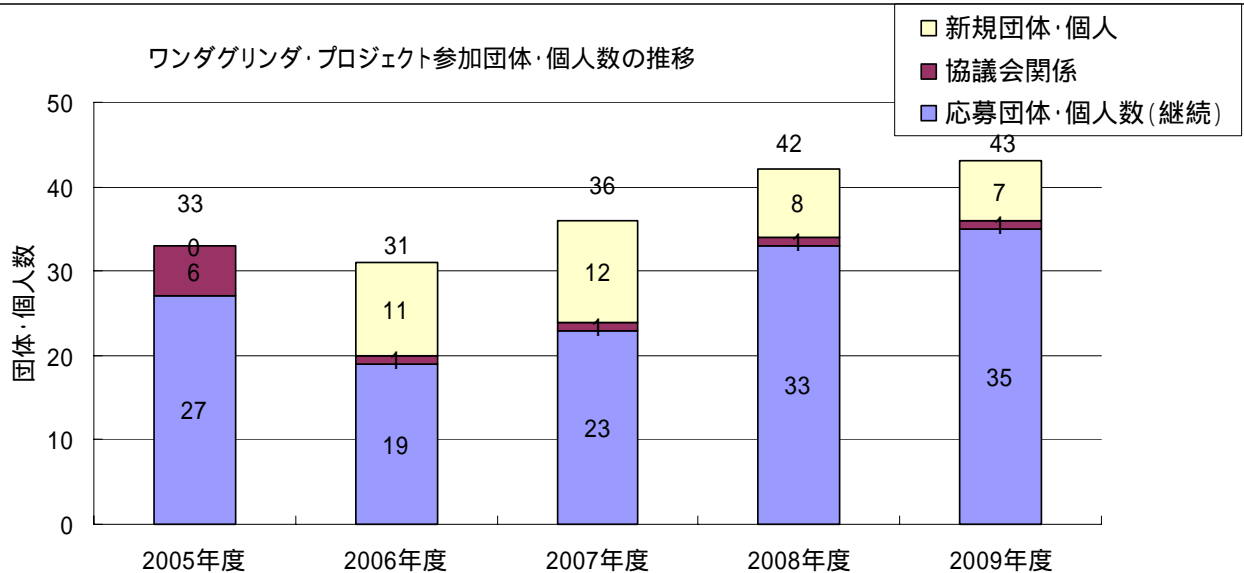
行動計画は、自然再生の直接の実施や合意形成の場ではないが、実施者ではなくても、そうした多様な立場の人々が当事者としていろいろな形で関わり、自然再生に貢献する機会を提供することを基本とする。

これらにより、地域の参加を特色とする「釧路方式」を特徴づけていく。

応募取組み10の分類



ワンダグリンド・プロジェクト参加団体・個人数の推移



## 第 1 期行動計画（2005～2009 年度）章別評価（案）

（以下全て、2008 年度までの 4 年間の情報に基づき整理した。各章の件数は重複を含む。）

### 1. 人々の湿原への関心を喚起する

たくさんの人々が湿原に目を向けるよう、関係機関が連携して今よりも効果的に情報を発信し、人々が日常生活や仕事の中で湿原を身近に感じ、関心を持つきっかけを増やしていくことが必要です。

さまざまな分野や立場に対して、それぞれ効果的な方法で生活や産業と湿原とのつながりを伝えていくことが必要です。

#### 計画期間に行う取組の実施状況

46 主体、のべ 138 件の取組が実施された。

人々が湿原と接するきっかけを提供する取組が期間中に多数実施された。取組み数、実施団体数とも、他項目に比べて抜きん出て多く、非常に活発に取組まれている。

フィールドでの直接の機会提供のみならず、市中でのセミナー、展示、イベント、地域 FM 等のメディアをとおした発信、道外を含むインターネットによる情報発信などの参加があった。

コンサートによるメッセージ発信、「湿原まんじゅう」の販売、折り紙や紙粘土などアートによる表現等、「環境保全活動」の枠にとどまらないユニークな活動が展開された。

#### 評価

人々が湿原に接する「入口」としての機会を着実に増やすことができたと考えられる。

多様な取組の参加が得られたことで、湿原に関わる活動の幅を広げ、環境教育・活動実施団体にとどまらないユニークなネットワークを形成することができた。

今後、こうした機会、ネットワークを地域、市民にさらに広げていくとともに、そこから湿原の保全、再生への参加、行動につなげていくことが期待される。



## 2. 湿原と人との関わりの歴史と今を知る

釧路湿原には開発と保全の長い歴史があります。湿原や周辺部が開発されてきた経緯を知り、私たちが得たもの、失ったものを伝えていく必要があります。

人々の暮らしと湿原や野生生物との関わりを地域が理解し、来訪者にも伝えるための機会を作りだしていく必要があります。

### 計画期間に行う取組の実施状況

17主体、のべ37件の取組が実施された。

野生生物（タンチョウ、ザリガニ、キツネ）との関わりを伝えるセミナーやツアーなどが多く、地域FM放送や修学旅行等でのガイド活動等、さまざまな機会、手法が活用されている。

高校での教育活動としての取組、学生向けワークキャンプ、老人保健施設での入居者向け講座等、幅広い年齢層がカバーされている。

湿原と人との関わりの歴史を直接テーマとする活動の応募は少なかったが、ワンダグリンド・プロジェクトの応募外でも、新聞での長期連載企画や博物館、郷土館等における常設展示、叢書の刊行など、さまざまな取組が行われており、相当数の住民、来訪者にメッセージが伝わっているはずである。

### 評価

流域の暮らしとさまざまな接点のある野生生物に関しては、活動団体、施設の存在もあり、比較的充実した活動実績が得られている。

開発の歴史等人との関わりについては、直接これをテーマに活動することは簡単ではないことが伺えるが、ワンダグリンド・プロジェクトの応募外でも、内容、手法とも多様で充実した発信が行われている。今後は、こうした取組の参加を得ていくことや参加団体の取組をとおして重層的に発信していくことが期待される。

施設やフィールドにおける来訪者や修学旅行の受入れ等、この地域には湿原と人との関わりを効果的に伝える機会があり、自然再生のPRを含め、今後とも活用が期待される。

### **3. 自然再生の仕組みや動きを広める**

湿原の保全や自然再生の取組みを、関係機関が連携してより効果的に広報していくことが必要です。特に既存の国立公園利用施設や観光施設などで自然再生についての情報発信を強化していくことが望まれます。

マスメディア、インターネット、パンフレットやニュースレター、各種表示など、あらゆる媒体を用いて釧路湿原で行われている取組みの発信が必要です。

#### 計画期間に行う取組みの実施状況

10主体、のべ61件の取組が実施された。

自然再生事業の普及については、主として自然再生協議会や事業実施者が中心となって、様々な機会を活用して実施されている。講演会や施設での展示等にとどまらず、フィールドを活用した取組も多い。

NPOによる修学旅行生への発信や、JICA研修をとおした海外への発信も行われている。

#### 評価

自然再生実施者によるPRや各種メディアを介した情報発信等が行われてきており、民間活動の中でも紹介されてきている。

自然再生事業自体の知名度は未だに低く、報道も一時に比べて減少しており、地域に対して、自然再生事業の実施状況や成果をよりきめ細かく発信していくことが必要である。

行動計画(ワンダグリンド・プロジェクト)により、多様な取組みを集約して発信する仕組みは得られており、今後の拡充が期待される。

## **4 . 自然再生について情報公開と合意形成を進める**

自然再生についての情報へのアクセスを改善し、情報源の整備や情報共有を進めていくことが必要です。

自然再生は、地域や関係主体の相互理解と合意形成のもとに進められる必要があります。このための交流や意見交換を継続的に実施していく体制が求められます。

### 計画期間に行う取組の実施状況

8主体、のべ24件の取組が実施された。

第三者には取り組みにくいテーマであり、当事者である協議会及び実施団体による取組みがほとんどであった。協議会としての意見交換会も期間中に各地で数回実施されている。

自然再生事業の現場を活用することでより理解を深めようとする、参加体験型の企画も継続的に実施されている。

応募外の取組を含め、複数の大学から研究対象としてアクセスがあり、研究及び政策提言活動によるワンダグリンダ・プロジェクトへの参加も得られた。

### 評価

自然再生協議会ホームページ等により最低限の情報公開は行われているが、地域に対する実施計画の成果、状況の報告、発信や会議参加の呼びかけ等は不足しており、協議会内部の情報共有についても改善の余地がある。

今後は、流域レベルでの関心喚起、合意形成、支持拡大に向けて、より積極的な情報公開、発信が望まれる。

## 5. 自然再生に地域・市民の参加を促す

地域・市民・来訪者に対する自然再生参加の機会を増やすとともに、参加の機会についての広報を強化していく必要があります。

親子や観光施設への来訪者などが気軽に参加できる機会を創出していく必要があります。

住民や観光客だけではなく、事業者や専門家など多様な主体の参加を引き出していく必要があります。

### 計画期間に行う取組みの実施状況

31主体、のべ99件の取組が実施された。

官民を問わず、多種多様な活動が展開され、地域、市民の参加の機会を創出してきており、地域活動として定着、認知を得ているものもある。

地元企業による湖の浄化やウチダザリガニ駆除、NPOや個人による森林再生、河川清掃等、直接的な自然再生活動も継続して行われるようになっている。こどもの参加の機会も継続的に設けられている。

信販会社によるカード売り上げの一部寄付等、間接的な参加の機会も創り出されている。

### 評価

フィールド作業への参加による直接的な貢献を含め、多種多様な参加の機会が設けられてきている。特に、地元企業による取組みが少しずつ増えており、動きが着実に拡大しつつある。

それらを支える広報活動として、メール、ホームページなどのインターネットを用いた発信ツールも整備されており、今後、発信の拡大と地域への浸透が望まれる。

自然再生に継続的に参加、貢献できる機会や来訪者がいつでも参加できる機会は限られており、「気づき」、「学び」から「参加」、「行動」にステップアップする機会の拡充が期待される。

## 6. 自然再生への幅広い支援・協力を求める

企業、メディアを含め、多様な主体に協力を呼びかけ、流域全体で自然再生に協力・支援していく必要があります。

寄付や協賛を広く呼びかけ、自然再生に活かしていくことが求められます。

買い物や消費を通じて市民や来訪者が自然再生に間接的に貢献する仕組みづくりが望まれます。

### 計画期間に行う取組みの実施状況

12主体、のべ35件の取組が実施された。

家庭での苗木の育成や、サケ稚魚の里親等、家族で参加できるプログラムや、NPOの呼びかけによる河川清掃等、河川を利用する事業者向け企画などの事業が実施されている。

自然再生協議会以外からもさまざまな形態の協力、支援の取組が行われてきており、植物画や音楽活動など、ユニークな分野からの連携、協力も生まれてきている。

### 評価

「できる者」が「できることから」という行動計画の特色が生かされ、数年前には見られなかった新しいタイプの支援活動を生むことができた。

ワンダグリンド・プロジェクト応募外で協議会への寄付も得られており、協力者のメリットを明確にすること等で、支援の輪を広げていくことが期待される。

自然再生をめぐる上流下流間の意識差や地域の産業との連携、支持拡大等の面では課題があり、自然再生の流域全体への貢献について、より明確に打ち出す必要がある。

## 7. 湿原と継続的に関わる学びの機会をつくる

自然再生を地域の学校教育や社会教育の場で教材として活用していくことが望まれます。

フィールドや公園利用施設の湿原学習や自然再生に関するプログラムや教材の充実が必要です。

イベント、職場研修、修学旅行等、あらゆる機会を活用して湿原に関する学びの場をつくりだしていくことが必要です。

### 計画期間に行う取組みの実施状況

20主体、のべ92件の取組が実施された。

活発に取り組み、特に、フィールドとしての湿原を活かした参加体験型の活動が数多く行われている。個人から企業、行政、大学まで、実施者の幅が広いことも特徴。

環境分野以外の団体の参画もあり、多様な機会が提供されているほか、行動計画をとおして新たな連携による活動も生まれている。

学校教育の支援に向けて、協議会では「環境教育ワーキンググループ」が設置されて活動し、流域の学校での湿原の活用状況等を明らかにするとともに、小中学校での湿原学習の事例や教材等を整理し、ガイドブックにとりまとめて刊行した。

応募外では、北海道教育大学釧路校が「ESD（持続可能な開発のための教育）プランナー」の養成に取り組んでおり、今後の連携が期待される。

### 評価

社会教育分野を中心に非常に活発に取り組まれている。担い手としては、NPOや行政が多いが、企業の社会貢献活動としての参加や生涯学習施設による継続的な機会提供、福祉施設での実践、民間による指導者（教員）向けの活動等、幅広い参加が得られており、対象者も多岐に及んでいる。

学校教育からの参加は1件にとどまっている。ただし、「環境教育ワーキンググループ」の調査によれば、釧路湿原地域の小中学校の約1/3は、湿原を活用した何らかの教育活動を行っており、年間80時間に及ぶ総合的な学習の時間を利用した環境教育を実践する学校も存在するようになってきた。今後は、環境教育ワーキンググループと連携し、そうした学校での活動事例について発信し、授業の支援により普及させていくことが期待される。

今後、自然再生自体を環境教育の教材として活用していくことが期待される。

## 8. 国立公園の新しい利用形態を創り出す

湿原の保全や再生に結びつく新しいスタイルの観光や滞在を作りだしていくことが望まれます。

保全や再生と両立する適正な湿原利用の文化の創出が望まれます。

観光以外にも湿原への負荷を抑えられる滞在スタイルの創出が望まれます。

### 計画期間に行う取組みの実施状況

9主体、のべ23件の取組が実施された。

学生主体のワークキャンプや修学旅行の継続的な受け入れなどの実績に加え、マウンテンバイクによるツアーや森林セラピーなど、期間中に新しい活動が生まれている。

ワンダグリンド・プロジェクト応募外ではあるが、海外からのバードウォッチングツアー、一般参加のワークキャンプ、道外からの避暑ツアーなど、新たな来訪形態が出てきている。また、他項目の応募ではあるが、公園利用施設でのコンサートなどの活動も行われている。

### 評価

既存の自然体験、観察にとどまらない過ごし方が提案、実践されてきている。ビジネスとして実施されるものあり、経済活動との両立に向けた試行が行われている。

湿原で起きていることを直接伝える場として、今後、観光分野との連携や相互補完が期待される。特に、近年の観光形態の変化（短縮化、個人客増、自由行動等）に対して、新しい過ごし方を提案できる可能性がある。

拠点や体制の整備等負担の大きい取組への参加はなかったが、これらについては、推進方策や代替方策を検討していくことが必要である。

## 9. 湿原を訪れる人へのサービスを改善する

湿原訪問・体験や滞在について地域が一体となってサービス向上を図ることが望まれます。

「地域をあげて自然を守り、湿原を再生している」という雰囲気作りが重要であり、公園利用施設以外の観光施設や交通拠点等でも情報案内を充実させ、来訪者にメッセージを伝えていくことが望まれます。

### 計画期間に行う取組みの実施状況

12主体、のべ33件の取組が実施された。

期間中に主要観光施設でもある湿原展望台の展示更新が行われ、年間パスポートや格安周遊パスポートなど、利用者向けに新たなサービスが導入された。

湿原のガイドマップ、ガイドブックが刊行され、これまでの観光ガイド書にない充実した情報を来訪者が簡単に入手できるようになった。

数は少ないが、来訪者向けの情報提供や解説など便宜を向上させる活動や、清掃活動や折り紙の展示など来訪者を迎えるための「おもてなし」的活動が行われてきている。コンサート出演による協力等、ユニークな協力も実践されている。

### 評価

さまざまな活動に関する情報流通体制を構築することで、情報の集約を進めることができた。市町村の協力も得て広報による発信にも着手できた。公園利用施設による季節ごとの情報提供も安定して行われ、マップやガイドブック等と併せて、個人旅行者でも自力でさまざまな情報を得て湿原を楽しむことができるようになってきている。

地域や来訪者への情報発信はさらに拡充する必要があり、公園利用施設以外の観光拠点やメディアとも連携し、より広汎な情報提供や湿原体験支援等を行うことが期待される。



## 10. 人・施設・地域のネットワークをつくる

自然再生への市民参加や環境教育を進めるための人と場を育て、顔の見えるネットワークを作りだしていくこと、そのための拠点機能が必要です。

道東一円の湿原や自然保護・再生プロジェクトとの連携が求められます。

海外の自然再生プロジェクトとの連携等、国際的なネットワークの中核としての活動が期待されます。

### 計画期間に行う取組みの実施状況

22主体、のべ55件の取組が実施された。

人のつながりを広げる活動が多数実施され、4年間の参加件数の伸びが大きかった。

事務局では、まちづくりイベントや商業施設等へも、機会をとらえて釧路湿原の自然再生に関するパネル展示、講演等を行い、自然系活動外へのネットワークを広げるよう努めてきた。

### 評価

行動計画自体がこうした活動の情報交流の拠点としてある程度機能し、人、施設、団体の新たなネットワークづくりに寄与できた。

姉妹湿地のあるオーストラリア等、海外との交流を含む事業も継続的に行われており、地域の国際交流にも貢献している。

今後は、これまでの交流やネットワークから、行動計画や自然再生の推進力を引き出していくことが期待される。

## < 参考 > 再生普及小委アンケート、各小委員長ヒアリングでの指摘事項等

2009年7月までに、再生普及小委員会構成員へのアンケート及び協議会の全小委員長へのヒアリングを実施し、行動計画改訂に対するたくさんのご意見をいただいた。その概要を以下に順不同で列挙した。

アンケートによれば、現計画の§1～10それぞれに重点化の期待があるが、比較的§5～8に対する期待が高かった。

### 1 行動計画の効用について

湿原との接点を広げることができた。

メディアへの露出自体よりも、ワンダグリンド・プロジェクトのような地道な取組がたくさん行われることに価値がある。

ワンダグリンド・プロジェクトへの参加数は着実に増えてきてはいるが、知名度や成果は未だ不十分。

愛好家などの参加は得られているが、一般向け普及はまだこれから。

自然再生そのものに関わる活動は少ない。

### 2 自然再生と地域・市民の関わり（～本来の目的）について

自然再生事業はそれなりに知られてきている。

人々が湿原に接する機会をもっと増やす必要がある。

地域の協力や参加を謳っているが、自然再生はまだ住民、地域から距離のある事業である。

自然再生は地域、市民の発意で進めるべきもの。国の予算が減ってきた今こそ釧路の真価が試される。国よりも自治体の役割が重要であり、地元主導で盛り上げていくべき。

自然再生への地域の関心は薄いですが、現場を訪れたり、何か参加することで理解は大きく深まる。

ワンダグリンド・プロジェクトのような活動や人から次の自然再生の動きがでてくるのでは。活動している人の問題意識を行動計画につなげればよい。

再生普及小委員会は、他の小委員会に横断的に関わるべき。協議会の構成も考え直したほうがよい。今盛り上がっている活動を、他の小委員会に投げかけてみては。

協議会が細分化され、全体像が見えない。各小委員会は横のつながりもなく、膠着状態で、市民にはもっと見えていないはず。小委員会間の見通しをよくするために、各小委員会の委員長によるディスカッションが望まれる。

再生普及小委員会は事業の状況や成果を普及する役割があるが、各小委が普及すべき成果が出ていない。

個々の小委員会が状況を持ち寄り、地域、市民が理解し、評価意見を出してもらえるとよい。

自然再生の取組の対外的評価が必要な時期が来ている。普及啓発もラムサール条約CEPAの観点から外部評価し、すりあわせるべき。

ワイズユースの形態を具体的な実践として提起を。

### 3 参加の拡大に向けて

地元（農家）にとってもメリットをつくりだす必要がある。ブランド化を目指すべきだろう。

普及だけではなく、Create、Generate することこそ必要。

協議会構成員の当事者意識が希薄。観客ではなくプレーヤーであるべき。

活動の規模は小さくてもたくさんの主体が関わるとよい。

学校教育への働きかけ、教員研修との連携や若年層の取り込みを。

事業間の横のつながりや環境意識の強い企業の巻き込みが効果的。

旅行者の参加や観光とのつながりを持ち、ブランド化を。

地理的理由から当事者意識がわきにくい。行政間の情報・意見交換の場があるとよい。

湿原の楽しさを伝えるだけでも立派な湿原大使。

目標を短期、中期、長期に分け、住民（市民、学生）、来訪者、無関心層等、ターゲットを明確にしたほうがよい。

再生普及小委員会が音頭をとって学習会を開けるとよい。個別事業の説明や報告の責任は、それぞれの小委にある。

全ての小委員会に行動計画の改訂について投げかけ、議論したほうがよい。

行動計画の見出しは、もっと平易な言葉を使ったほうがよい。「市民」といっても幅があるので、対象に応じた書き方を。

### 4 情報発信について

ワンダグリダ・プロジェクトの情報発信は有用。自然再生以外の様々な情報が含まれる多様性もよい。

調査結果や実施状況等、地域に情報を還元していく必要がある。

専門的な内容を普段湿原に触れている（専門家ではない）メンバーが理解でき、納得するが必要。

ワンダグリダ・プロジェクトの個々の活動の場をとおしてこれができるとうよい。

子供に対しても、環境教育ガイドブックやパネル展等、既存の活動をとおして発信を。

巻き込むこと、人を動かすことが重要。そのための能動的な情報発信を。

情報公開と合意形成が必要。

メディアとの連携による周知、情報発信の強化を。

国内、アジア、世界への情報発信と人的交流、幅広いネットワークの構築を。

自然再生シンポジウムなどのイベントは、役割を終えているのでは。目的を明確にしたほうがよい。

# 釧路湿原再生普及行動計画 2010-2014 (素案)

## 目 次

はじめに (協議会会長のことば)

### 1 背景と経緯

- 1 - 1 行動計画の背景
- 1 - 2 これまでの経緯

### 2 釧路湿原自然再生普及行動計画とは

- 2 - 1 目的
- 2 - 2 行動計画の性格と考え方
- 2 - 3 構成
- 2 - 4 計画期間と進行管理
- 2 - 5 推進体制

### 3 計画期間に行う取り組み

- 3 - 1 釧路湿原を知る、楽しむ、学ぶ
- 3 - 2 自然再生に参加する、行動する
- 3 - 3 地域と関わり、人をつなぐ

## 参考資料

再生普及行動計画ワーキンググループ名簿

協議会構成図

# 1 背景と経緯

## 1 - 1 行動計画の背景

釧路湿原では、2003年11月に自然再生推進法に基づく「釧路湿原自然再生協議会」(以下、「協議会」という)が設立され、同法に基づく「釧路湿原自然再生全体構想」(2005年3月策定、以下、「全体構想」という)及び地区毎の自然再生事業実施計画(以下、「実施計画」という)により、ラムサール条約に登録された1980年頃の環境を取り戻すべく、具体的な事業が進められています。

自然再生は、目標達成に数十年という時間を要すること、流域全体を視野に自然の持つ自己回復力を引き出しながら進めていくこと、モニタリングと評価に基づき事業を見直しながら進めることなど、従来の環境政策や公共事業にはない特徴を持ちます。その推進のためには、地域の理解や参画を広げていくことが不可欠であり、これを支える環境教育や市民参加<sup>1</sup>の仕組みづくりを必要とします。このため、全体構想では目標達成のための主要な施策のひとつとして「持続的な利用と環境教育の促進」を位置づけています。

協議会は、自然再生推進法の趣旨と全体構想を受けて、釧路湿原の自然再生にかかる環境教育や市民参加を推進するための5年計画として、「釧路湿原自然再生普及行動計画」(以下、「行動計画」という)を2005年6月に作成し、運用してきました。

この行動計画が5年目を迎えるにあたり、これまでの実績を踏まえて内容を改定し、流域の社会、経済の持続可能な発展への貢献をも視野においた環境教育や市民参加の一層の普及、拡大に向けて、当面の目標と方策を示し、国内の自然再生を先導する「釧路方式」を特徴づけていくものです。

---

<sup>1</sup> 本計画では、「市民」とは、「市内に住む人」という意味ではなく、流域全体の住民、活動団体、来訪者等、広く自然再生実施者以外の人々を意味する言葉として使います。

## 1 - 2 これまでの経緯

1999年9月～2001年3月

「釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会」設置。「釧路湿原の河川環境保全に関する提言」をとりまとめた。<sup>2</sup>

2002年9月～2003年6月

「釧路湿原の自然再生に係る市民参加・環境教育等の推進方策調査懇談会」設置。計6回の会合を経て「市民参加・環境教育の推進に関する10の提言」をとりまとめた。

2003年11月

「釧路湿原自然再生協議会」設立、「再生普及小委員会」の設置。

2004年7月～2005年6月

同小委員会に設置された「再生普及行動計画ワーキンググループ」（以下、「行動計画ワーキンググループ」という）の7回の会合、及び同小委員会での検討を経て、上記「10の提言」の具体化に向けた5年間の第1期計画として「釧路湿原自然再生普及行動計画」（以下、「行動計画」という）を作成。

2005年6月～現在

毎年度の具体的な取組みを募集し、報告をとりまとめる形で、第1期行動計画の進行管理を開始。2006年度からは、公募で決まった「ワンダグリンド・プロジェクト」の愛称で実施。

2009年4月24日 第15回行動計画ワーキンググループ（改訂についての意見交換）

～7月 小委員会メンバーへのアンケート、各小委員長との意見交換実施

～9月 行動計画ワーキンググループ事務局による素案作成作業

以下、予定

10月19日 第16回行動計画ワーキンググループ（改訂行動計画素案の検討）

11月頃 第17回行動計画ワーキンググループ（改訂行動計画案の検討）

11月頃 第14回再生普及小委員会（改訂行動計画案の検討）

12月頃 第15回釧路湿原自然再生協議会（改訂行動計画の承認）

<sup>2</sup> この提言は、市民参加、環境教育関連の記載にそれぞれ章を割いて記述しています。

## 2 釧路湿原自然再生普及行動計画とは

### 2 - 1 目的

この行動計画は、自然再生推進法の趣旨と全体構想をふまえ、釧路湿原の自然再生<sup>3</sup>を、地域、市民の理解、支持、協力、参加のもとに効果的に進め、そのために幅広く環境教育活動を展開していくために作成するものです。

自然再生は、自然科学だけではなく、社会、文化的側面をもち、多様な利害関係者が存在します。行動計画は、自然再生の直接の実施や合意形成の場ではないものの、そうした多様な立場の人々が当事者としていろいろな形で関わり、自然再生に貢献する機会を提供することを目指します。

第1期の行動計画（2005～2009年度）では、釧路湿原地域での人々と湿原の接点を増やし、「関心」、「学び」を広げ、取り組む人や主体の幅も広げることができました。今回の第2期行動計画（2010～2014年度）では、そうした「関心」、「学び」の対象や機会を「さらに広げる」とともに、「参加」、「行動」につなげ、「深める」ことを目標とします。

長期的には、自然再生の推進のみならず、湿原の自然とともに暮らしていくために、湿原と人々のつながりをつくり、流域の社会、経済の発展に貢献していくことを目指します。

これらにより、地域の参加を特色とする「釧路方式」を特徴づけていきます。

---

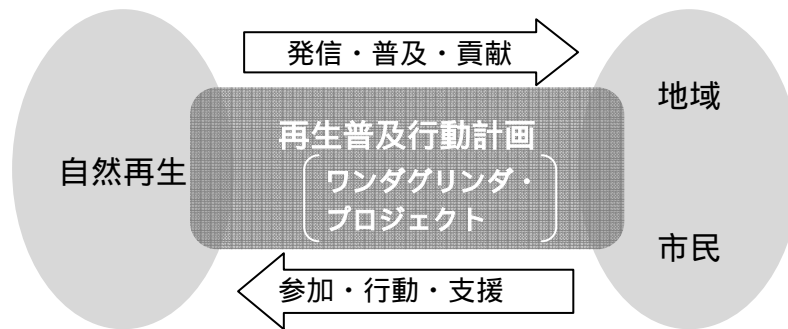
<sup>3</sup> 全体構想では、「自然再生」をより広く、自然の保全・回復・復元・修復・維持管理・創出などの概念を含むものとして定義しています。以下、本行動計画においても、保全（今残されている良好な自然を良好な状態で維持すること）等を含めた意味で用います。

## 2 - 2 行動計画の性格と考え方

この行動計画は、自然再生推進法に基づく実施計画ではありませんが、全体構想に基づく各実施計画に環境教育や市民参加を進めていくための横断的な指針として、実施計画に準じる重要な役割を担います。

この行動計画は、釧路湿原の自然再生への地域、市民の関心、協力、参画を拡大していくために求められる多岐にわたる課題に対し、「できる者」が「できること」から取り組むことを原則に、私たちが目指すべき方向をまとめたものです。

自然再生事業実施者や事務局だけではなく協議会としての計画であり、具体的な行動をする人や地域の活動を応援するための、広く開かれた計画です。協議会内外を問わず、誰でも参加できる仕組みとして、「ワンダグリンド・プロジェクト」<sup>4</sup>を行動計画の一環として実施します。ワンダグリンド・プロジェクトは、行動計画と地域・市民をつなぎ、ネットワークを広げるためのプロジェクトです。



## 2 - 3 構成

行動計画は、第1期行動計画に整理した10の項目を、2-1に示した重点目標である「さらに広げる」ことと「深める」こと、及びそれらに取り組むうえで共通的に関わること、の3つを軸に再編し、それぞれの項目毎に、目指すべき目標と方向性等を記載しています。

それぞれの項目ごとに、具体的に想定される手法（取組）を記載してあります。個々の手法については、計画期間内に実施が見込める当面の取組と、将来的な実現に向けて可能性を探っていく取組とに分けて記述します。

具体的な取組については、各年度毎に「ワンダグリンド・プロジェクト」参加事業として募集します。

<sup>4</sup> 「ワンダグリンド」とは、「Wonder」（すばらしい）、「One」（ひとつの）、「Greenだ！」を併せた造語です。第1期行動計画の中で参加者から公募、採用し、2006年から各年度の具体的な取組みの愛称として使われています。



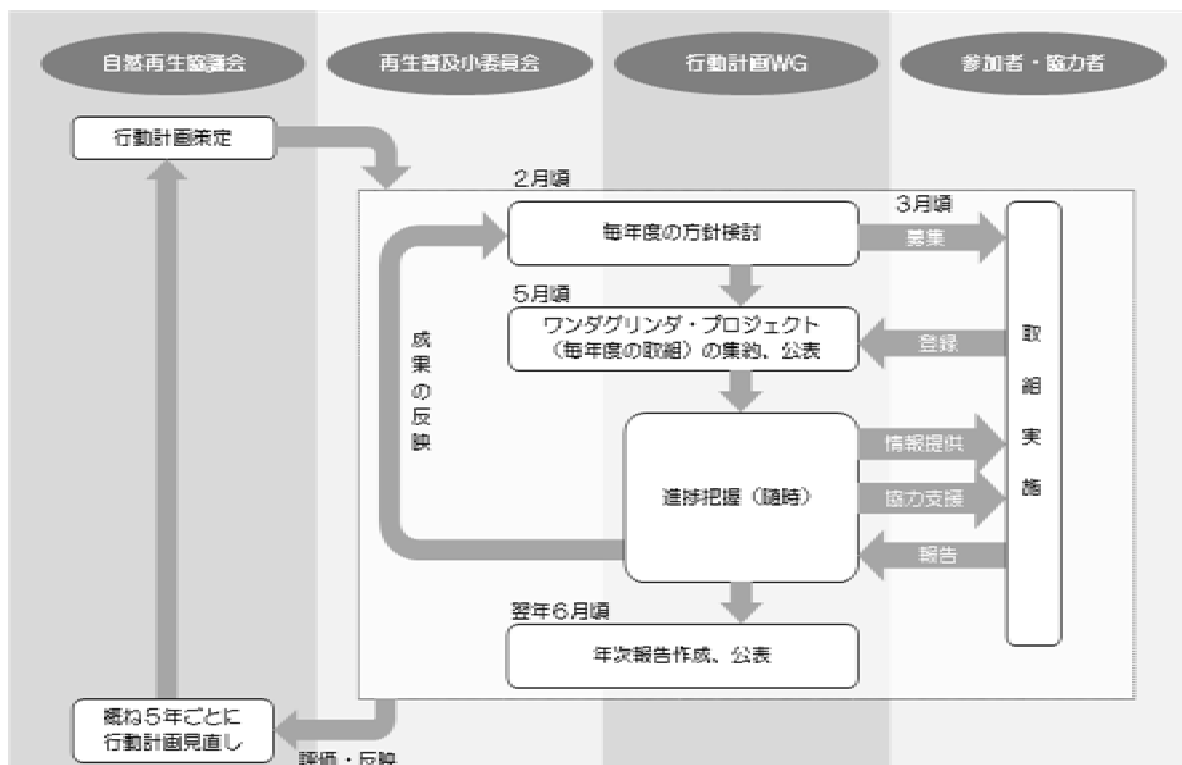
## 2 - 4 計画期間と進行管理

この行動計画の計画期間は、2010～2014年度の5年間とし、全体構想の各施策の達成状況の点検にあわせて、概ね5年毎に評価し、見直していきます。

行動計画ワーキンググループ事務局（以下、「事務局」という）は、この行動計画の内容に沿って各主体が実施する具体的な取組を「ワンダグリンド・プロジェクト」として毎年度把握し、再生普及小委員会で承認を受けて公表し、協議会に報告します。

ワンダグリンド・プロジェクトにより行動計画に参加する取組については、事務局から情報提供、広報支援等を行うほか、必要に応じて事業協力や助言を行います。また、それぞれの事業の実施状況を把握し、集約して発信します。

毎年度終了後には、事務局が実施状況をとりとまとめ、公表します。各年度の実施の経験やそこから得られたアイデア等は、可能な範囲で次年度の方針に反映していきます。



## 2 - 5 推進体制

この行動計画は、再生普及小委員会に設置された行動計画ワーキンググループが推進主体となって進めます。行動計画ワーキンググループでは、行動計画の作成や改訂作業、進捗状況の把握と進行管理に関する検討、その他行動計画の達成のために必要な具体的な検討を行います。

行動計画ワーキンググループの事務局は、環境省釧路自然環境事務所におきます。

この行動計画に参加する主体は、ワンダグリンド・プロジェクトのロゴマークを活動に使用することができます。



### 3 計画期間に行う取組み

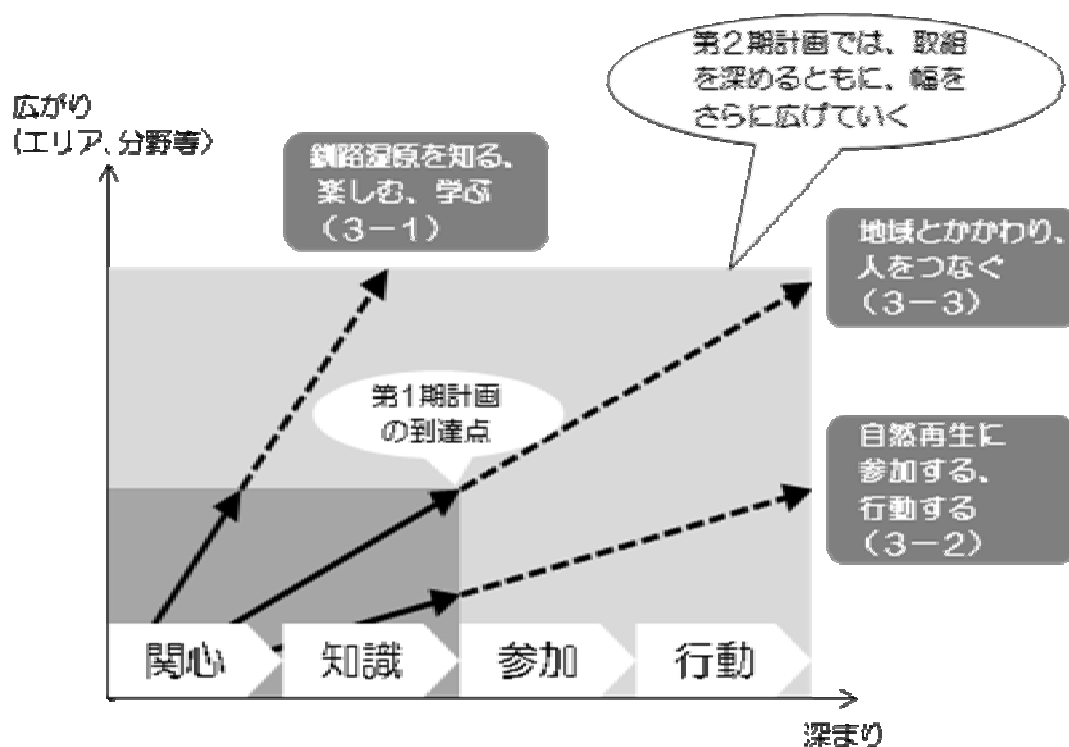
2005年度からの第1期計画では、人々と湿原との接点を増やし、関わる人の幅も広げることができました。2010年度からの第2期計画では、湿原に関心を持つ人をさらに増やしていくとともに、「関心」、「知識」から、「参加」、「行動」につなげ、人々と湿原の関わりを深めていくことを目指します。

また、参加者、協力者自身で、さらなるつながり、広がりを生み出していくことを目指します。

将来的には、湿原と流域の人々とのつながりをつくり、湿原の自然と一緒に暮らし、いていくこの地ならではの生活文化をつくっていきます。

このため、第2期計画では、以下の3つの分野に重点的に取り組みます。

- 「釧路湿原を知る、楽しむ、学ぶ」
- 「自然再生に参加する、行動する」
- 「地域と関わり、人をつなぐ」



### 3 - 1 釧路湿原を知る、楽しむ、学ぶ

これまでにたくさんの方が関わって進めてきた、湿原を「知る」、「楽しむ」、「学ぶ」活動を行動計画の基盤として継続し、人々が湿原に接する「入口」と「幅」を広げていきます。

#### ( 1 ) 目標

人々が湿原に関心をもつための湿原との接点を増やします。  
湿原のことを知り、体験し、楽しむ機会をつくります。  
湿原のことを学び、考える機会をつくります。  
湿原と人の関わりの歴史と今を伝えます。  
湿原で行われている取組について情報発信します。  
自然再生に関する情報公開を進めます。

#### ( 2 ) 想定する実施内容

- a 湿原を知り、体験できる、行事やツアーを実施します。
- b 湿原に関するセミナー、展示、その他の企画を実施します。
- c メディア、出版、インターネットなどで湿原のことを発信します。
- d 音楽、アートなどの文化活動をとおして湿原のことを伝えます。
- e 店舗、飲食店、宿泊施設、文化施設、公共施設などの場で湿原のことを伝えます。
- f 学校や修学旅行で湿原のことを伝えます。
- g 湿原関連施設で様々な行事や情報発信を行います。
- h 湿原と産業や暮らしの関わりを学び、伝えます。
- i 湿原の野生生物と人との関わりについて学び、伝えます。
- j 湿原や自然再生の状況を地域によりきめ細かく伝えます。
- k 自然再生に関する情報を拡充し、迅速に発信します。

### 3 - 2 自然再生に参加する、行動する

湿原について、気づきや知識を得た人たちが、今度は一歩進めて、様々な活動に参加し、協力、支援し、行動することで、湿原との関わりを深めていけるよう、行動計画のこれまでの経験や成果を活用して、当面重点的に活動します。

#### ( 1 ) 目標

あらゆる立場から、自然再生に参加、協力できる機会を増やします。  
湿原に関心をもち、自然再生にかかわる人を増やします。  
自然再生に参加、行動する人を支援します。  
自然再生に関する活動の情報を発信します。

#### ( 2 ) 想定する実施内容

- a 自然再生や湿原に関わる活動への参加、協力の機会について、発信します。
- b 自然再生や民間活動において、多様なプログラムを作成し市民や地域の参加を呼びかけます
- c 子ども・親子で参加、活動する機会をつくります
- d 参加、行動したい人向けの交流やステップアップの機会をつくります。
- e 市民、事業者、学校、行政の湿原に関わる活動を支援します。
- f 一次産業、商業、観光等、事業者や店舗に参加や協力を呼びかけ、活動を応援します。
- g 自然再生への協力者・協力団体を紹介、発信します。

### 3 - 3 地域と関わり、人をつなぐ

自然再生と地域や人とのつながりをつくり、関心、学び、参加、行動、協力、支援のそれぞれを広げ、将来にわたって湿原の自然と一緒に暮らしていける、地域の持続的な発展をめざします。

#### ( 1 ) 目標

流域を視野に自然再生と地域の持続的発展の両立を目指す取組を進めます。

湿原への来訪者、滞在者向けのサービスを改善し、人々と湿原との関わりを創り出していきます。

人、組織、施設をつなぎ、自然再生を支えるネットワークづくり、雰囲気作りを進めます。

#### ( 2 ) 想定する実施内容

- a 地域の魅力創出に貢献すべく、湿原の新しい楽しみ方を提案、実践します。
- b 自然再生、地域の産業や文化を活用した、新たなツーリズムをつくります。
- c 湿原に関するさまざまな情報とあわせて、観光、宿泊、飲食等に関する情報提供を行う、ツーリストインフォメーション機能の整備を図ります。
- d 湿原関連の情報集約を進め、公園利用施設に加えて、新たに観光拠点、商業施設、交通機関等での情報提供、サービスを拡充します。
- e 都市や海外との交流プログラム、地域間連携による事業を実施します。
- f 流域、圏域の自然系施設間の情報交流や連携事業を拡充します。

## 釧路湿原自然再生普及行動計画 旧計画と新計画（素案）対応表

### 旧計画

1. 人々への湿原への関心を喚起する
2. 湿原と人との関わりの歴史と今を知る
3. 自然再生の仕組みや動きを広める
4. 自然再生について情報公開と合意形成を進める
5. 自然再生に地域・市民の参加を促す
6. 自然再生への幅広い支援・協力を求める
7. 湿原と継続的に関わる学びの機会をつくる
8. 国立公園の新しい利用形態を創り出す
9. 湿原を訪れる人へのサービスを改善する
10. 人・施設・地域のネットワークをつくる

### 新計画

#### 3-1 釧路湿原を知る、楽しむ、学ぶ

人々が湿原に関心をもつための湿原との接点を増やします。

湿原のことを知り、体験し、楽しむ機会をつくります。

湿原のことを学び、考える機会をつくります。

湿原と人との関わりの歴史と今を伝えます。

湿原で行われている取組について情報発信します。

自然再生に関する情報公開を進めます。

#### 3-2 自然再生に参加する、行動する

あらゆる立場から、自然再生に参加、協力できる機会を増やします。

湿原に関心を持ち、自然再生にかかわる人を増やします。

自然再生に参加、行動する人を支援します。

自然再生に関する活動の情報を発信します。

#### 3-3 地域と関わり、人をつなぐ

流域を視野に自然再生と地域の持続的発展の両立を目指す取組を進めます。

湿原への来訪者、滞在者向けのサービスを改善し、人々と湿原との関わりを創り出していきます。

人、組織、施設をつなぎ、自然再生を支えるネットワークづくり、雰囲気作りを進めます。

## 今後のスケジュール（案）

2009 年	
6 月 4 日	<p><u>第 13 回再生普及小委員会 開催</u></p> <p>再生普及行動計画見直しについて検討</p> <p>再生普及行動計画見直しに関するアンケート回収(14 件)</p>
7 月	<p>森林再生、土砂流入、水循環小委員長へのヒアリング（旧川復元小委員長は 3 月に実施）</p>
8 月、9 月	<p>再生普及行動計画の評価と見直しについて検討(3 回)</p>
10 月 19 日	<p><u>第 16 回再生普及行動計画WG 開催</u></p> <p>再生普及行動計画の見直しについて検討</p> <p>自然再生協議会構成員への「第 2 期釧路湿原自然再生普及 行動計画(案)」に対する意見照会(郵送)</p> <p>WEB(再生普及行動計画WG通信)での公開・意見照会</p> <p>とりまとめ、修正作業等</p>
12 月	<p><u>第 17 回再生普及行動計画WG、第 14 回再生普及小委員会 同時開催(予定)</u></p> <p>再生普及行動計画の評価(案)と次期計画(案)の検討</p> <p>ワンダグリンダ・プロジェクト 2009 中間報告</p> <p>次期計画に沿った募集などの動きについて</p>
12 月 (未定)	<p><u>第 15 回 釧路湿原自然再生協議会 開催 (予定)</u></p> <p>新・再生普及行動計画(案)の承認 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新・再生普及行動計画スタート</span></p>



# 釧路湿原自然再生普及行動計画

## 応募取組み10の分類 資料

(2005年度～2008年度)

ワンダグリンド・プロジェクト2005～2008までの4年間に報告された取組みを、釧路湿原自然再生普及行動計画の内容に沿って分類してみました。

分類するにあたって、以下の方法で行いました

1. ワンダグリンド・プロジェクト2005～2008の取組み報告書「4.取組み報告」に書かれた「取組みのねらい」に従って分類しました。  
2005については数件未記入であったため、WG事務局が内容から判断し分類したものがあります。
2. 「取組みのねらい」に沿って10に分類した後、普及行動計画の中の「計画期間に行う取組み」の項目（分類表では1a、1bと整理番号を振りました）に分類しました。
3. 3の分類を行う際、2つ以上の項目に関係する内容であっても、代表的な項目1つにのみ割り振りました  
1つの取組みが複数回カウントされると情報が膨大になるため
4. 分類は普及行動計画WG事務局（内田）が行いました

今回の分類は、普及行動計画の4年分を振り返るための判断材料として行ってみました。  
どの項目にどれだけの取組み件数があったかを大まかに見るためのものです。  
分類については主催者の意図と異なる場合もあるかもしれませんが、まずは今回上記のように分類してみました。

1. 人々の湿原への関心を喚起する

	主催者	2005	2006	2007	2008	累計	
1a	既存のイベント・観察会等のPRを行う						
1b	湿原を題材としたワークショップを実施する	北海道標茶高等学校	農家や産業と連携した検討会や環境学習会を実施	湿原保護再生のための研究・教育活動、地域への発信、意見交換会の実施		7	
		自然再生協議会	交流会やWS、検討会などを開催し流域住民同士の相互理解を深めます				
		阿寒国際ツルセンター			親子学習会でクワコリや湿原保全の重要性を伝えます / 自然や野生生物について話し合う会を開きます		
		KIWC			湿地の保全と再生に関するWS開催		
	日本ボーイスカウト北海道連盟				2008ビーバーまつり&カブラーinくしろ(北海道大会)開催		
1c	地元メディアを中心としたマスメディアを活用する						
1d	湿原関連施設で文化事業を実施する	キャノン	「ジュニアフォトグラファーズ」開催			6	
		高木さん	楽器演奏協力				
		北島さん	演奏協力				演奏協力
		釧新、釧路町観光協会		湿原コンサート	湿原コンサート		
1e	街頭やマスメディアを活用したキャンペーンを行う						
1f	湿原周辺で地域向けに、広報・啓発活動を行う	FMくしろ	「ゆうゆう釧路湿原塾」放送	「ゆうゆう釧路湿原塾」放送	「ゆうゆう釧路湿原塾」放送	「ゆうゆう釧路湿原塾」放送	
		釧路湿原国立公園連絡協議会	湿原に関する情報を毎月紙面で発行	湿原に関する情報を毎月紙面で発行	国立公園20周年記念事業 / 湿原に関する情報を毎月紙面で発行	湿原に関する情報を毎月紙面で発行 / 釧路湿原こどもレンジャー事業の実施 / 温根内VCと塘路湖EMCでの情報共有と施設間の連携を図る	
		ボランティアネットワークチャレンジ隊	「じゅう箱のすみ」を媒体に自然再生の仕組みやそこに関わる人々の姿をわかりやすく市民に発信します	釧路湿原音探検 / 「じゅう箱のすみ」を媒体に自然再生の仕組みやそこに関わる人々の姿をわかりやすく市民に発信します	釧路湿原音探検 / 「じゅう箱のすみ」を媒体に自然再生の仕組みやそこに関わる人々の姿をわかりやすく市民に発信します	釧路湿原音探検	
		NPO法人釧路湿原やちの会	温根内VC駐車場清掃活動 / 北斗の木道で小鳥の巣箱設置		温根内VC駐車場清掃活動 / 湿原道路の清掃活動 / 釧路湿原ウォーキング大会 / 一般(個人・団体)客の受入れ / 修学旅行の受入れ	温根内VC駐車場清掃活動 / 湿原道路の清掃活動 / 一般(個人・団体)客・修学旅行の受入れ	
		「天狗のかくれ里」実行委員会	ミュージカル会場で自然再生を宣伝				
		達古武オートキャンプ場	湿原の花や自然の情報を紹介				
		細岡ビジターズラウンジ	年間を通じて湿原の花や自然を紹介	年間を通じて湿原の花や自然を紹介			
		KIWC		湿原観察会開催	湿原観察会開催		
		釧路市生涯学習センター		まなぼっとお遊者塾「いきがい新発見」開講 / いきいき女性講座開講 / 湿原はたる講座開講 / まなぼっと子ども体験隊の実施	くしろ市民大学開講 / まなぼっとお遊者塾「いきがい新発見」開講 / いきいき女性講座開講 / 湿原はたる講座開講 / まなぼっと子ども体験隊の実施	くしろ市民大学開講 / まなぼっとお遊者塾「いきがい新発見」開講 / いきいき女性講座開講 / 湿原はたる講座開講 / まなぼっと子ども体験隊の実施	
		お菓子 二幸		湿原まんじゅう販売	湿原まんじゅう販売	湿原まんじゅう販売	
		環境コンサルタント		釧路湿原勉強会開催	カヌーで達古武湖清掃	カヌーで達古武湖清掃	
		環境省釧路自然環境事務所	自然ふれあい行事で自然再生事業をPRします	達古武地区で市民体験調査会を開催 / 各施設で自然再生事業を紹介する展示を行います	達古武地区で市民体験調査会を開催		
		林野庁釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター	自然再生予定で、自然再生学習会・植樹体験を開催	雷別地区で自然再生学習会開催 / 雷別地区で苗木育成	雷別地区で自然再生学習会開催 / お庭で苗木育成制度 / 雷別どんぐり倶楽部		
		釧路市観光振興室			湿原展望台リニューアルオープン / 釧路湿原「格安周遊バスポート」販売 / 湿原展望台「年間利用バスポート」販売		
		伊勢さん			折り鶴を周辺施設に提供	折り鶴を周辺施設に提供	
		岩間さん			湿原周辺住民対象に、湿原の美しさを紹介する自然解説を実施		
		夢工房			イベントを通して幅広くみなさまに湿原の良さや保護について理解を深めてもらう		
		NPO法人フィッシャーズ協会			カヌー業者やそこに関わる人たちと協力してカヌー清掃活動	カヌー業者やそこに関わる人たちと協力してカヌー清掃活動	
		鶴居、伊藤タンチョウサンクチュアリ			FAネットワークとワークキャンプを実施 / タンチョウの解説とスライドショー	FAネットワークとワークキャンプを実施 / タンチョウの解説とスライドショー	
		スポーツ振興財団			釧路湿原マラソンと湿原ウォークを開催	釧路湿原マラソンと湿原ウォークを開催	
		車いすマラソン実行委員会			全国車いすマラソン大会開催	全国車いすマラソン大会開催	
		釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会		4×1/4ウォーク開催	4×1/4ウォーク開催		
		釧路シャケの会			シャケ稚魚里親募集と放流式	シャケ稚魚里親募集と放流式	
		シルバーシティときわ台ビルズ			施設入居者が自然再生について学ぶ自然再生文化講座の開設 / 海外の老人ホームとの相互交流	施設入居者が自然再生について学ぶ自然再生文化講座の開設 / 海外の老人ホームとの相互交流	
		釧路ボタニカルアートの会			地元の植物や環境を観察して学び、植物細密画を描き、作品を環境保護活動に役立てます	地元の植物や環境を観察して学び、植物細密画を描き、作品を環境保護活動に役立てます	
		リンク・リング			野生動物へのエサやりの是非の説明を通して、人と動物、自然のかかわりについて考える機会をもってもらいます		
		笹本さん			私有地を広葉樹林に再生	私有地を広葉樹林に再生	
		山崎山林森林セラピー推進会			山崎山林にて様々なテーマのツアーを開催	山崎山林にて様々なテーマのツアーを開催	
		小川さん		紙粘土人形での展示協力		紙粘土人形での展示協力	
		無国籍雑貨 鳥屋				アイヌ模様を使ったオリジナル商品の製作・販売	
		川口さん				カレンダー作成と展示	
		沢田建設(株)				ウチダザリガニ防除活動	
		磯野さん				北海道動物折紙の折り図を作成、イベントに協力	
		1g	湿原に関する出張講座や移動展示を行う	太平洋総合コンサルタント	湿原に関する環境教育の実施	湿原に関する環境教育の実施	湿原に関する環境教育の実施
環境コンサルタント					湿原流域で環境教育		
明盛建設(株)					茅沼の工事現場で釧路湿原に関する資料展示		
1h	インターネットによる湿原情報を発信する	釧路湿原国立公園連絡協議会	HPによる湿原情報発信	HPによる湿原情報発信	HPによる湿原情報発信	11	
		KIWC	HPによる湿原情報発信	HPによる湿原情報発信			
		自然再生協議会	様々な機会が発信してもらえるように情報収集・情報提供します(WG事務局)	HP「再生普及行動計画WG通信」で湿原に関する話題等提供	HP「再生普及行動計画WG通信」で湿原に関する話題等提供		HP「再生普及行動計画WG通信」で湿原に関する話題等提供
		10ko10ko			温根内散歩の様子をブログで発信		
1i	地域外の人が感じる湿原の魅力や湿原価値を地元で発信する	さとぼん	釧路湿原の魅力や歩き方に関する情報を発信	釧路湿原の魅力や歩き方に関する情報を発信	釧路湿原の魅力や歩き方に関する情報を発信	4	
1j	道外・海外へ情報を発信する	KIWC	英語・日本語による湿原に関するニュースレター発行	英語・日本語による湿原に関するニュースレター発行	英語・日本語によるHP、ニュースレター等による湿原情報の発信	4	
	団体数: 46	19	24	49	46		

2. 湿原と人との関わりの歴史と今を知る

	主催者	2005	2006	2007	2008	累計	
2a	語り部から湿原や歴史を学ぶ機会をつくる	FMくしろ			「ゆうゆう釧路湿原塾」放送	1	
2b	地域の歴史や産業の体験ツアーの企画・実施を行う	北海道標茶高等学校		湿原保護再生のための研究・教育活動、地域への発信、意見交換会の実施		5	
		林野庁釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター		自然再生予定で、自然再生学習会・植樹体験を開催			
		釧路市観光振興室			釧路湿原「格安周遊パスポート」の販売 / 湿原展望台リニューアルオープン / 湿原展望台「年間利用パスポート」販売		
2c	湿原の開発や保全の歴史を教材化する						
2d	湿原の開発と保全をテーマとする写真展や絵画展などを実施する						
2e	野生生物と人との関わりをテーマとするガイドツアーや展示等を実施する	鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	タンチョウの解説とスライドショー / TTG講習会実施	タンチョウの解説とスライドショー / TTG講習会実施	TTG講習会実施 / FAネットワークとのワークキャンプ実施	タンチョウの解説とスライドショー / TTG講習会実施 / FAネットワークとのワークキャンプ実施	28
		十勝夢ツーリズム協会	十勝川における水鳥観察ツアーの事例紹介				
		(株)北都		山崎山林で視察や研修ツアーの場を提供します			
		NPO法人釧路湿原やちの会			一般(個人・団体)客の受入れ / 修学旅行の受入れ	一般(個人・団体)客・修学旅行の受入れ / 温根内VC駐車場清掃	
		阿寒国際ツルセンター			親子学習会でタンチョウや湿原保全の重要性を伝えます / 自然や野生生物について話し合う会を開きます		
		岩間さん			湿原周辺住民対象に、湿原の美しさを紹介する自然解説を実施		
		シルバーシティときわ台ヒルズ			施設入居者が自然再生について学ぶ自然再生文化講座の開設	施設入居者が自然再生について学ぶ自然再生文化講座の開設 / 海外の老人ホームとの相互交流	
		山崎山林森林セラピー推進会			山崎山林にて様々なテーマのツアーを開催	山崎山林にて様々なテーマのツアーを開催	
		リンク・リング			野生生物へのエサやりの是非の説明を通して、人と動物、自然のかかわりについて考える機会をもってもらいます		
		釧路市生涯学習センター				くしろ市民大学開講	
		釧路湿原国立公園連絡協議会				釧路湿原こどもレンジャー事業の実施	
		日本ボーイスカウト北海道連盟				2008ピーバーまつり&カブラリーinくしろ(北海道大会)開催	
磯野さん				北海道動物折紙の折り図を作成、イベントに協力			
2f	湿原周辺での廃棄物不法投棄防止キャンペーンを実施する	NPO法人釧路湿原やちの会			湿原道路の清掃活動 / 温根内VC駐車場清掃活動	2	
2g	湿原の開発や保全の歴史の記録集約と保存を行う( )						
2h	地域産業にとっての湿原の価値を議論し、発信する( )						
その他	NPO法人釧路湿原やちの会				釧路湿原ウォーキング大会を実施します	1	
		団体数:17	3	5	17	12	

3. 自然再生の仕組みや動きを広める

	主催者	2005	2006	2007	2008	累計	
3a	釧路湿原自然再生全体構想の普及を行う	自然再生協議会	様々な機会を利用して全体構想を普及します	自然再生に関わるパネル展など企画実施 / 自然再生に関わる講演会等を実施 / 各種イベント時において自然再生を紹介 / 自然再生に関わる印刷物の作成・発行をし、配布 / 自然再生に関わる視察・研修等の受入れ・協力	自然再生に関わるパネル展など企画実施 / 自然再生に関わる講演会等を実施 / 各種イベント時において自然再生を紹介 / 自然再生に関わり印刷物の作成・発行をし、配布 / 自然再生に関わる視察・研修等の受入れ・協力	自然再生に関わるパネル展など企画実施 / 自然再生に関わる講演会等を実施 / 各種イベント時において自然再生を紹介 / 自然再生に関わり印刷物の作成・発行をし、配布 / 自然再生に関わる視察・研修等の受入れ・協力	27
		環境省釧路自然環境事務所		自然ふれあい行事で自然再生をPRします	達古武地区で市民体験調査会	達古武地区で市民体験調査会を開催	
		林野庁釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター		自然再生予定地で、自然再生学習会・植樹体験を開催します	雷別地区で自然再生学習会開催 / 雷別地区で苗木育成	雷別地区で自然再生学習会開催 / お庭で苗木育成制度 / 雷別どんぐり倶楽部	
		NPO法人釧路湿原やちの会			一般(個人・団体)客の受入れ		
		釧路湿原国立公園連絡協議会				釧路湿原こどもレンジャー事業の実施	
3b	冊子やインターネットによる広報を拡大する	自然再生協議会	自然再生の仕組みや動きについて、機会あるごとに冊子やインターネットで紹介します	自然再生協議会HPにて、協議会関連情報を発信します	自然再生協議会HPにて、協議会関連情報を発信します	4	
3c	ニュースレターなど、自然再生関連情報誌を入手できる場所を増やす	自然再生協議会	自然再生に関するパンフレットやニュースレターなどを多く目にできるよう配布箇所を拡大していきます			1	
3d	ビジターセンター等自然系施設での自然再生情報提供を拡充する	自然再生協議会	既存の自然系施設にて、最近の自然再生の情報をわかりやすく提供します			4	
		達古武オートキャンプ場	再生事業を啓発するポスター等展示の場を提供します				
		環境省釧路自然環境事務所		各施設で自然再生事業を紹介する展示を行います	各施設で自然再生事業を紹介する展示を行います		
3e	キャッチフレーズやロゴなど自然再生のシンボルを作成する					2	
3f	省庁・自治体等関係機関による情報発信を一元化する	自然再生協議会	これまで、各省庁・自治体が独自で発信してきた自然再生情報をまとめ、わかりやすく発信します			1	
3g	メディアを活用して、自然再生について継続的に発信する	自然再生協議会	自然再生に関する情報を、各種メディアを活用して継続的に紹介・発信し、情報に触れる機会を増やします			1	
3h	メディアを活用して、自然再生や環境教育に取組む民間活動を紹介する	自然再生協議会	自然再生や環境教育に関する取組を行っているNPO等の民間活動をメディアを活用して紹介します	地元新聞社への情報掲載依頼を行います / 各種情報誌での掲載を行います	地元新聞社への情報掲載依頼を行います / 各種情報誌での掲載を行います	7	
3i	釧路湿原自然再生協議会が作成した釧路湿原ガイドマップの普及と販売を促進する	自然再生協議会	釧路湿原自然再生協議会が作成した釧路湿原ガイドマップを販売し、広く普及させることで自然再生についての仕組みや動きを広めます	釧路湿原ガイドマップの販売を進めます	釧路湿原ガイドマップの販売を進めます	4	
3j	道外・海外の自然再生プロジェクトとの情報交流を行う	KIWC			湿地保全やワイズユースに関するJICA研修	湿地保全やワイズユースに関するJICA研修	2
3k	学校教育で使用する教材の作成や教科書等へのテーマ採用を働きかける	NPO法人釧路湿原やちの会			修学旅行の受入れ	一般(個人・団体)客・修学旅行の受入れ	2
3l	市民参加型調査・活動の継続支援を行い、広報を拡充する						
3m	地域及び道内外の行事において自然再生に関する取組を紹介する						
3n	保護区・再生事業対象地区等を示す標識・表示を拡充する						
3o	湿原の将来・再生後のイメージをビジュアル化する ( )						
その他	鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ		FAネットワークとワークキャンプを実施します			6	
	釧路ボタニカルアートの会			地元の植物や環境を観察して学び、植物細密画を描き、作品を環境保護活動に役立てます	地元の植物や環境を観察して学び、植物細密画を描き、作品を環境保護活動に役立てます		
	NPO法人釧路湿原やちの会			温根内VC駐車場清掃活動	温根内VC駐車場清掃活動		
	環境コンサルタント			カヌーで達古武清掃			
	団体数:10	9	13	19	19		

4. 自然再生について情報公開と合意形成を進める

	主催者	2005	2006	2007	2008	累計	
4a	協議会や小委員会、ワーキンググループ等会議の積極的公開と会議結果の迅速な公表を行う	自然再生協議会	自然再生として今なにが行われているかを伝えます	自然再生協議会HPにて、協議会関連情報を発信します / 自然再生に関わる印刷物の作成・発行をし、配布します	自然再生協議会HPにて、協議会関連情報を発信します / 自然再生に関わる印刷物の作成・発行をし、配布します	自然再生協議会HPにて、協議会関連情報を発信します / 自然再生に関わる印刷物の作成・発行をし、配布します	7
4b	湿原を題材とした交流会を実施する	自然再生協議会	意見交換会等を実施します	意見交換会等を実施します	意見交換会等を実施します	意見交換会等を実施します	11
		林野庁釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター		自然再生予定で、自然再生学習会・植樹体験を開催	雷別地区で自然再生学習会開催 / 雷別地区で苗木育成	雷別地区で自然再生学習会開催 / お庭で苗木育成制度 / 雷別どんぐり倶楽部	
		釧路湿原塾		森林再生事業をテーマに講演・植樹・視察等を行います			
4c	本行動計画の進捗評価や改善提案を継続して行う		本計画の進捗状況や来年度に向けた改善や提案の検討を行います(普及小、行動計画WG)				1
4d	湿原の環境情報の集約・データベース化と公開を行う	釧路開発建設部、釧路支庁、環境省、林野庁	環境情報を集約してデータベースを作成(開発建設部、釧路支庁、環境省、林野庁)				1
4e	地域ごとの様々な関係者の相互理解を促進し、近密な協力関係を構築する( )						
その他	環境省釧路自然環境事務所				各施設で自然再生事業を紹介する展示を行います		4
	法政大学				自然再生事業について経済学的な見地から調査・研究し政策提言を行う		
	釧路ボタニカルアートの会				地元の植物や環境を観察して学び、植物細密画を描き、作品を環境保護活動に役立てます	地元の植物や環境を観察して学び、植物細密画を描き、作品を環境保護活動に役立てます	
	団体数:8	4	5	8	7		

5. 自然再生に地域・市民の参加を促す

	主催者	2005	2006	2007	2008	累計	
5a	参加の機会についての情報収集や発信を行う	自然再生協議会	釧路湿原に関する情報、イベント、自然再生に関する情報を収集し、インターネット等により広く発信します(協議会、行動計画WG、WG事務局)	HP「普及行動計画WG通信」にて湿原に関する話題等を提供します	HP「普及行動計画WG通信」にて湿原に関する話題等を提供します	HP「普及行動計画WG通信」にて湿原に関する話題等を提供します	4
5b	ワークキャンプの実施・受入れを行う	鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	FAネットワークとワークキャンプの実施	FAネットワークとワークキャンプの実施			2
5c	各再生事業や市民活動団体の活動において、多様なプログラムを作成し市民参加を呼びかける	釧路湿原ボランティアレンジャーの会	4×1/4ワーク開催/クリーンウォーク・観察会を実施	クリーンウォーク・観察会		クリーンウォーク	59
		釧路市生涯学習センター	まなぼっとお達者塾「いきがい新発見」開講/いきいき女性講座開講/湿原はたる講座開講/		くしろ市民大学開講/まなぼっとお達者塾「いきがい新発見」開講/いきいき女性講座開講/湿原はたる講座開講	くしろ市民大学開講/まなぼっとお達者塾「いきがい新発見」開講/いきいき女性講座開講/湿原はたる講座開講	
		KIWC	湿原観察会の実施		湿地と保全に関するWS開催	釧路・厚岸・浜中の湿原と豪の湿地が姉妹提携し、情報・人的交流等を実施/湿原観察会の実施	
		達古武オートキャンプ場	湿原の動植物に関する講演会等の実施の場を提供します	湿原の動植物に関する講演会等の実施の場を提供します			
		ボランティアネットワークチャレンジ隊	釧路湿原音探検		釧路湿原音探検	釧路湿原音探検	
		釧路開発建設部	釧路湿原川レンジャー活動(開発建設)/くしろ環境スクール受講生で活動(開発建設)	釧路湿原川レンジャー活動	釧路湿原川レンジャー活動	釧路湿原川レンジャー活動	
		くしろ地球村	地球環境講演会の実施				
		釧路湿原塾	自然再生をテーマとしたシンポジウム開催				
		キャノン	「ジュニアフォトグラファーズ」開催				
		林野庁釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター		自然再生予定地で自然再生学習会・植樹体験を開催します	雷別地区で自然再生学習会開催/雷別地区で苗木育成	雷別地区で自然再生学習会開催/お庭で苗木育成制度/雷別どんぐり倶楽部	
		日専連釧路		日専連釧路FWカード発行し利用額の一部を寄付	日専連釧路FWカード発行し利用額の一部を寄付	日専連釧路FWカード発行し利用額の一部を寄付	
		釧路シャケの会			シャケ稚魚里親募集と放流式	シャケ稚魚里親募集と放流式	
		NPO法人釧路湿原やちの会			湿原道路の清掃活動/釧路湿原ウォーキング大会/一般(個人・団体)客の受入れ	湿原道路の清掃活動/一般(個人・団体)客・修学旅行の受入れ	
		釧路ボタニカルアートの会			地元の植物や環境を観察して学び、植物細密画を描き、作品を環境保護活動に役立てます	地元の植物や環境を観察して学び、植物細密画を描き、作品を環境保護活動に役立てます	
		リンク・リング			野生生物へのエサやりの是非の説明を通して、人と動物、自然のかかわりについて考える機会をもってもらいます		
		日本ボーイスカウト北海道連盟				2008ビーバーまつり&カブラリーinくしろ(北海道大会)開催	
		沢田建設(株)				ウチダザリガニ防除活動	
自然再生協議会		意見交換会等実施/自然再生に関わる講演会等を実施	意見交換会等実施/自然再生に関わる講演会等を実施	意見交換会等実施/自然再生に関わる講演会等を実施			
5d	既存のプログラム(参加型調査や観察会等)における自然再生の紹介及び自然再生につながる活動の実践を行う	NPO法人トラストサルン釧路	トラスト地でボランティア作業受入れ	トラスト地でボランティア作業受入れ	トラスト地でボランティア作業受入れ	トラスト地でボランティア作業受入れ	9
		NPO法人釧路湿原やちの会	21世紀の道ウォークラリー開催				
		KIWC	技術委員会による研究		技術委員会による研究	技術委員会による研究	
		北海道標茶高等学校	植物を利用した水質浄化実験				
5e	市民参加を進めるための仕組みやプログラムを、地域との協働でつくる	法政大学			ゼミにおいて釧路湿原自然再生事業を調査・研究し、政策の提案をします		3
		NPO法人フィッシャーズ協会			カヌー事業者やそこに開くひとたちと協力してカヌーによる清掃活動を実施	カヌー事業者やそこに開くひとたちと協力してカヌーによる清掃活動を実施	
5f	来訪者に湿原をガイドする仕組みをつくる	釧路開発建設部		くしろ環境スクール受講生で活動	くしろ環境スクール終了生で活動	くしろ環境スクール終了生で活動	3
5g	子ども・親子で自然再生・保全に参加する機会をつくる	釧路市生涯学習センター	まなぼっと子ども体験隊の実施	まなぼっと子ども体験隊の実施	まなぼっと子ども体験隊の実施	まなぼっと子ども体験隊の実施	12
		釧路湿原国立公園連絡協議会	釧路湿原子どもレンジャー事業の実施	釧路湿原子どもレンジャー事業の実施	釧路湿原子どもレンジャー事業の実施	釧路湿原子どもレンジャー事業の実施	
		太平洋総合コンサルタント			湿原に関する環境教育の実施	湿原に関する環境教育の実施	
		環境省釧路自然環境事務所			達古武地区で市民体験調査会	達古武地区で市民体験調査会を開催	
5h	交通機関、観光拠点でのポスター掲示・パンフレット配布を行う						
5i	参加者への滞在、移動等の便宜を地域が一体となって提供する( )						
5j	インターンを受入れる( )						
その他		笹本さん		私有地を広葉樹林に再生	私有地を広葉樹林に再生	私有地を広葉樹林に再生	7
		環境コンサルタント		カヌーで達古武清掃			
		勤労青少年ホーム利用者の会				釧路川周辺の清掃活動を実施	
		川口さん				カレンダー作成と展示	
		明盛建設(株)				茅沼の工事現場で釧路湿原に関する資料展示室	
	団体数:31	21	15	29	34		

6. 自然再生への幅広い支援・協力を求める

	主催者	2005	2006	2007	2008	累計	
6a	自然再生事業への協賛や寄付を募る	自然再生協議会	自然再生協議会への協賛や寄付金を募ります	自然再生協議会への協賛や寄付金を募ります	自然再生協議会への協賛や寄付金を募ります	自然再生協議会への協賛や寄付金を募ります	4
6b	自然再生への協力者・協力団体をホームページ等で紹介する	自然再生協議会	自然再生への協力者・協力団体などをHPで紹介				1
6c	事業所・各種施設等での湿原保全につながる配慮や取組みの実施を働きかける	林野庁釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター		自然再生予定地で、自然再生学習会・植樹体験を開催します	雷別地区で自然再生学習会開催 / 雷別地区で苗木育成	雷別地区で自然再生学習会開催 / お庭で苗木育成制度 / 雷別どんぐり倶楽部	20
		環境省釧路自然環境事務所		自然ふれあい行事で自然再生事業をPRします			
		NPO法人釧路湿原やちの会			湿原道路の清掃活動 / 釧路湿原ウォーキング大会 / 一般(個人・団体)客の受入れ / 修学旅行の受入れ	湿原道路の清掃活動 / 一般(個人・団体)客・修学旅行の受入れ	
		NPO法人フィッシャーズ協会			カヌー業者やそこに携わる人たちと協力してカヌー清掃活動	カヌー業者やそこに携わる人たちと協力してカヌー清掃活動	
		日専連釧路			日専連釧路FWカードを発行し、利用額の一部を寄付	日専連釧路FWカードを発行し、利用額の一部を寄付	
		リンク・リング			野生生物へのエサやりの是非の説明を通じて、人と動物、自然のかかわりについて考える機会をもってもらいます		
		釧路シャケの会			シャケ稚魚里親募集と放流式		
		北島さん				演奏協力	
6d	再生事業や地域づくりについてのメッセージを受け、公表する	自然再生協議会		各種情報誌での掲載を行います	各種情報誌での掲載を行います	各種情報誌での掲載を行います	4
		法政大学			ゼミにおいて釧路湿原自然再生事業を調査・研究し、政策の提案をします		
6e	自然再生・保全についてのポスター掲示・パンフレット配布等の協力者を拡大する						
6f	メディアによる広報の協力を働きかける	自然再生協議会		地元新聞社への情報掲載依頼等を行います	地元新聞社への情報掲載依頼等を行います	地元新聞社への情報掲載依頼等を行います	3
6g	釧路湿原自然再生基金を創設し、その基金によりNPO, NGOの活動を支援する( )						
6h	自然再生事業協力団体・協力商品等の認定制度を創設する( )						
6i	専門家による支援・協力の獲得・受入れ体制を拡充する( )						
6j	流域全体の環境負荷低減のための啓発を行う( )						
その他	釧路ボタニカルアートの会				地元の植物や環境を観察して学び、植物細密画を描き、作品を環境保護活動に役立てます	地元の植物や環境を観察して学び、植物細密画を描き、作品を環境保護活動に役立てます	3
	賀勢さん					北海道動物立体折紙の展示	
	団体数: 12	2	5	15	13		

7. 湿原と継続的に関わる学びの機会をつくる

	主催者	2005	2006	2007	2008	累計		
7a	既存のイベントを活用する	賀勢さん			北海道動物立体折紙の展示	2		
		磯野さん			北海道動物折紙の折り図を作成、イベントに協力			
7b	既存施設での湿原学習プログラム・学習会等を実施する	北海道標茶高等学校	農家や産業と連携した検討会や環境学習会を実施	湿原保護再生のための研究・教育活動、地域への発信、意見交換会の実施		12		
		細岡ビジターズラウンジ	年間を通して湿原の花や自然を紹介します	年間を通して湿原の花や自然を紹介します				
		達古武オートキャンプ場	湿原の花や自然の情報を紹介します					
		鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	タンチョウ解説とスライドショー	タンチョウ解説とスライドショー				
		環境省釧路自然環境事務所			各施設で自然再生事業を紹介する展示を行います			
		シルバーシティときわ台ヒルズ			施設入居者が自然再生について学ぶ自然再生文化講座の開設		施設入居者が自然再生について学ぶ自然再生文化講座の開設 / 海外の老人ホームとの相互交流	
環境コンサルタント		釧路湿原勉強会開催						
7c	来釧する修学旅行プログラムを活用する	NPO法人釧路湿原やちの会	修学旅行のメニューのひとつとして、自然再生を学んだり作業に参加するプログラムを作成し実践	修学旅行の受入れ	一般(個人・団体)客・修学旅行の受入れ	3		
7d	市町村・教職員などの職員研修への講師派遣及び研修内容の提案を行う	自然再生協議会	釧路湿原について広く知ってもらうための講師派遣や研修内容を提案します			1		
7e	湿原体験ツアー・自然再生見学ツアーを実施する	釧路湿原国立公園連絡協議会	釧路湿原子どもレンジャー事業の実施	釧路湿原子どもレンジャー事業の実施	釧路湿原子どもレンジャー事業の実施	釧路湿原子どもレンジャー事業の実施 / 温根内VCと塘路湖EMCでの情報共有と施設間の連携を図る	54	
		KIWC	JICA研修(KIWC)	JICA研修 / 湿原観察会実施	湿地保全やワイズコースに関するJICA研修			
		釧路市生涯学習センター	まなぼと子ども体験隊開講 / いきいき女性講座開講	まなぼと子ども体験隊開講 / まなぼとお達者塾「いきいき新発見」開講 / いきいき女性講座開講 / 湿原ほたる講座開講	くしろ市民大学開講 / まなぼと子ども体験隊開講 / まなぼとお達者塾「いきいき新発見」開講 / いきいき女性講座開講 / 湿原ほたる講座開講	くしろ市民大学開講 / まなぼと子ども体験隊開講 / まなぼとお達者塾「いきいき新発見」開講 / いきいき女性講座開講 / 湿原ほたる講座開講		
		NPO法人トラストサルン釧路	トラスト地でボランティア受入れ	トラスト地でボランティア受入れ	トラスト地でボランティア受入れ	トラスト地でボランティア受入れ		
		北島さん	湿原コンサートへの出演協力					
		釧路湿原ボランティアレンジャーの会		クリーンウォーク・観察会を実施		クリーンウォーク実施		
		環境コンサルタント			カヌーで達古武湖清掃	カヌーで達古武湖清掃		
		ボランティアネットワークチャレンジ隊		釧路湿原音探検	釧路湿原音探検	釧路湿原音探検		
		環境省釧路自然環境事務所		自然ふれあい行事で自然再生事業をPRします	達古武地区で市民体験調査会を開催	達古武地区で市民体験調査会を開催		
		釧路開発建設部		釧路湿原川レンジャー活動	釧路湿原川レンジャー活動	釧路湿原川レンジャー活動		
		林野庁釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター		自然再生予定地で、自然再生学習会・植樹体験を開催します	雷別地区で自然再生学習会開催 / 雷別地区で苗木育成	雷別地区で自然再生学習会開催 / お庭で苗木育成制度 / 雷別どんぐり倶楽部		
		NPO法人釧路湿原やちの会			一般(個人・団体)客を受入れます			
		山崎山林セラピー推進会			山崎山林にて様々なテーマのツアーを開催	山崎山林にて様々なテーマのツアーを開催		
		日本ボーイスカウト北海道連盟				2008ピーパーまつり&カブラリーinくしろ(北海道大会)開催		
		沢田建設(株)				ウチダザリガニ防除活動		
7f	参加体験・学習プログラム等のスタンパリーを実施する							
7g	学校や生涯学習講座への出前授業を実施する	太平洋総合コンサルタント	湿原に関する環境教育の実施	湿原に関する環境教育の実施	湿原に関する環境教育の実施	5		
		環境コンサルタント			湿原流域で環境教育			
7h	学校や生涯学習講座における出前授業の受入れを働きかける							
7i	児童生徒・学校対象の湿原学習・研究のコンクール・発表会を行う							
7j	学校・図書館等での湿原コーナーの設置を働きかける							
7k	湿原をテーマとした研究の公募と研究フィールドを提供する							
7l	ビジターセンターなどへの人員配置を拡充する							
7m	湿原の木道で、利用最盛期に自然解説を恒常的に行う仕組みをつくる( )							
7n	学校教育における体系的な湿原学習の導入及び統一教材の作成を行う( )							
7o	各分野での指導者を養成する( )	釧路開発建設部		くしろ環境スクール受講生による活動	くしろ環境スクール終了生による活動	6		
		鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ		TTG講習会	TTG講習会			
7p	自然再生を研究テーマとする学生の研修を行う( )	法政大学	ゼミにおいて釧路湿原自然再生事業を調査・研究し、政策の提案をします	ゼミにおいて釧路湿原自然再生事業を調査・研究し、政策の提案をします		5		
		自然再生協議会		自然再生に関わる視察・研修等の受入れ・協力	自然再生に関わる視察・研修等の受入れ・協力		自然再生に関わる視察・研修等の受入れ・協力	
7q	既存の宿泊施設や売店を含む、利用関連施設を学びの場として一層活用する( )							
7r	湿原を学ぶための宿泊研修拠点を創出する( )							
7s	環境教育に関する全国レベルの会合やワークショップを開催する( )							
その他		釧路ボタニカルアートの会			地元の植物や環境を観察して学び、植物細密画を描き、作品を環境保護活動に役立てます	4		
		リンク・リング			野生生物へのエサやりの是非の説明を通して、人と動物、自然のかかわりについて考える機会をもってもらいます			
		笹本さん			私有地を広葉樹林に再生			
		団体数:20	14	22	26	30		



8. 国立公園の新しい利用形態を創り出す

	主催者	2005	2006	2007	2008	累計	
8a	既存の歩道において徒歩またはクロスカントリースキーコースとして一層利用する	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会		4×1/4ウォーク開催	4×1/4ウォーク開催		6
		釧路湿原MTBクラブ		湿原周辺でのMTBツーリング	湿原周辺でのMTBツーリング	湿原周辺でのMTBツーリング	
		NPO法人釧路湿原やちの会			釧路湿原ウォーキング大会		
8b	野生生物ウォッチングやエコツーリズム等の観光スタイルを発信する	鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	タンチョウの解説とスライドショー	タンチョウの解説とスライドショー			9
		釧路シャケの会	シャケ稚魚育成と放流実施し、協力者を募ります				
		釧路市観光振興室			釧路湿原「格安周遊パスポート」の販売 / 湿原展望台リニューアルオープン		
		山崎山林森林セラピー推進会			山崎山林にて様々なテーマのツアーを開催	山崎山林にて様々なテーマのツアーを開催	
		NPO法人釧路湿原やちの会			一般(個人・団体)客を受入れます	一般(個人・団体)客・修学旅行の受入れ	
8c	ワークキャンプ の実施・受入れを行う	鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	FAネットワークとワークキャンプを実施	FAネットワークとワークキャンプを実施	FAネットワークとワークキャンプを実施	FAネットワークとワークキャンプを実施	4
8d	湿原利用のガイドラインを作成する						
8e	農村留学など、都会の子どもを受入れる	NPO法人釧路湿原やちの会			修学旅行の受入れ		1
8f	エコツーリズムの視点による適正利用のルールづくりを行う						
8g	エコツーリズムのプログラムを開発する( )						
8h	既存利用関連施設のエコツアー拠点化、地域の交流拠点化を行う( )						
8i	ワークキャンプ が常時受け入れられる体制を整える( )						
8j	自然再生関連技術習得プログラムを提供する( )						
8k	北斗・温根内地区をはじめとする既存施設の効果的な連携や機能の強化を行う( )						
その他	環境省釧路自然環境事務所		各施設で自然再生事業を紹介する展示を行います				3
	NPO法人フィッシャーズ協会			カヌー業者やそこに関わる人たちと協力してカヌー清掃活動			
	NPO法人釧路湿原やちの会				湿原道路の清掃活動		
団体数:9		3	5	10	5		

9. 湿原を訪れる人へのサービスを改善する

	主催者	2005	2006	2007	2008	累計
9a	既存イベント等の一括広報を行う	自然再生協議会		ホームページ「普及行動計画WG通信」にて湿原に関する話題等を提供します	ホームページ「普及行動計画WG通信」にて湿原に関する話題等を提供します	3
9b	省庁・自治体等関係機関による情報発信を一元化する	自然再生協議会	これまで、各省庁・自治体が独自で発信してきた自然再生情報をまとめ、わかりやすく発信します	自然再生協議会ホームページにて、協議会関連情報を発信します	自然再生協議会ホームページにて、協議会関連情報を発信します	4
9c	カウンターサービスでの案内業務を検討し試行する					
9d	主要観光拠点の案内窓口における湿原情報提供の拡充を検討・試行する	釧路市観光振興室			湿原展望台「年間利用パスポート」を販売 / 釧路湿原「格安周遊パスポート」を販売 / 湿原展望台リニューアルオープン	3
9e	自然解説ガイドの育成とガイド設置の仕組みを考える					
9f	交通拠点、レンタカー営業所、ガソリンスタンド、観光施設、宿泊施設、商業施設等での湿原情報・パンフレット等を提供する	自然再生協議会		釧路湿原ガイドブックの販売を進めます	釧路湿原ガイドブックの販売を進めます	4
		夢工房		施設利用者に、湿原周辺での自然の楽しみ方を伝えます		
9g	公園利用施設のサービス内容を発信する					
9h	来訪者への湿原体験必要装備(自転車、雨具、防寒着、長靴等)の貸出を行う					
9i	統一標識による湿原保全・再生をアピールする					
9j	道東地区のビジターセンターなど自然系施設間の情報ネットワークを拡充する					
9k	詳細な湿原情報を提供する施設を設置する(ツーリストインフォメーション)( )					
9l	湿原観光における公共交通機関のサービスを拡充する( )					
その他	鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	タンチョウの解説とスライドショー	タンチョウの解説とスライドショー	タンチョウの解説とスライドショー	タンチョウの解説とスライドショー	19
	細岡ビジターズラウンジ	年間を通じて湿原の花や自然を紹介	年間を通じて湿原の花や自然を紹介			
	達古武オートキャンプ場	湿原の花や自然の情報を紹介				
	NPO法人釧路湿原やちの会			一般(個人・団体)客を受け入れ / 修学旅行を受け入れ / 湿原道路清掃活動 / 温根内VC駐車場清掃活動	一般(個人・団体)客・修学旅行の受け入れ	
	伊勢さん			折り鶴を周辺施設に提供	折り鶴を周辺施設に提供	
	NPO法人フィッシャーズ協会			カヌー業者やそこに関わる人たちと協力してカヌー清掃活動	カヌー業者やそこに関わる人たちと協力してカヌー清掃活動	
	賀勢さん				北海道動物立体折紙の展示	
	北島さん				演奏協力	
釧路シャケの会				シャケ稚魚里親募集と放流式		
	団体数: 12	4	5	13	10	

10. 人・施設・地域のネットワークをつくる

	主催者	2005	2006	2007	2008	累計	
10a	省庁・自治体等関係機関による情報発信を一元化する 自然再生協議会	これまで各省庁・自治体が独自で発信してきた自然再生情報をまとめ、わかりやすく発信	HP「普及行動計画WG通信」にて湿原に関する話題等を提供 / 自然再生協議会HPにて、協議会関連情報を発信	HP「普及行動計画WG通信」にて湿原に関する話題等を提供 / 自然再生協議会HPにて、協議会関連情報を発信	HP「普及行動計画WG通信」にて湿原に関する話題等を提供 / 自然再生協議会HPにて、協議会関連情報を発信	7	
10b	湿原周辺にある自然系施設を活用する	釧路湿原国立公園連絡協議会			温根内VCと塘路EMCで自然観察会を実施	7	
		釧新、釧路町観光協会			釧路湿原コンサート開催		
		釧路市観光振興室			湿原展望台リニューアルオープン / 釧路湿原「格安周遊バスポート」販売 / 湿原展望台「年間利用バスポート」販売		
		北島さん			演奏協力		
	KIWC				湿原観察会開催		
10c	海外の湿原保全地域と提携する KIWC	JICA研修 / 釧路・厚岸・浜中の湿原と豪の湿地が姉妹提携し、情報・人的交流等を実施	JICA研修 / 釧路・厚岸・浜中の湿原と豪の湿地が姉妹提携し、情報・人的交流等を実施	湿地保全やワイズユースに関するJICA研修 / 市民訪問団による豪姉妹湿地訪問を支援	釧路・厚岸・浜中の湿原と豪の湿地が姉妹提携し、情報・人的交流等を実施	7	
10d	道東地区のビジターセンターなど自然系施設間の情報ネットワークを拡充する 釧路湿原国立公園連絡協議会		温根内VCと塘路湖EMCでの情報共有と施設間の連携を図る		温根内VCと塘路湖EMCでの情報共有と施設間の連携を図る / 湿原に関する情報を毎月紙面で発行 / HPによる湿原情報発信	4	
10e	博物館や図書館など各種既存施設間のネットワークを構築する KIWC		技術委員会による研究活動		技術委員会による研究活動	4	
		シルバーシティときわ台ヒルズ			施設入居者が自然再生について学ぶ「自然再生」文化講座の開設		
10f	各種サークルや多様な分野の組織・ネットワークと「顔の見える」交流を行う	夢工房	湿原利用者に湿原周辺での自然の楽しみ方を伝える	イベントを通して湿原の良さや保護について理解を深めてもらう		12	
		ボランティアネットワークチャレンジ隊			「じゅう箱のスマ」を媒体に自然再生の仕組みやそこに関わる人々の姿をわかりやすく楽しく発信		
		NPO法人フィッシャーズ協会			カヌー業者やそこに関わる人たちと協力してカヌー清掃活動		カヌー業者やそこに関わる人たちと協力してカヌー清掃活動
		釧路シャケの会			シャケ稚魚里親募集と放流式		
		車いすマラソン実行委員会			全国車いすマラソン大会の実施		全国車いすマラソン大会の実施
		山崎山林森林セラピー推進会			山崎山林にて様々なテーマのツアーを開催		山崎山林にて様々なテーマのツアーを開催
		勤労青少年ホーム利用者の会			春採湖周辺の清掃活動を実施		釧路川周辺の清掃活動を実施
10g	情報拠点の整備や発信の工夫により、だれもが手軽に情報を入手できるようにする ( )						
10h	口コミネットワークを活用して情報発信を促進するため、観光関係者や地域住民の湿原についての魅力や自然再生の取組みについて理解を広げる( )	林野庁釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター	自然再生予定地で、自然再生学習会・植樹体験を開催	雷別地区で自然再生学習会開催 / 雷別地区で苗木育成	雷別地区で自然再生学習会開催 / お庭で苗木育成制度 / 雷別どんぐり倶楽部	11	
		無藤さん	湿原と名のつく(美味しいものを食べに行き、その情報を広める)				
		村田さん	地球環境論文に、釧路湿原の現状とこのプロジェクトを書き多くの人に知ってもらおう				
		NPO法人釧路湿原やちの会		一般(個人・団体)客受入れ / 修学旅行受入れ	一般(個人・団体)客・修学旅行の受入れ		
		シルバーシティときわ台ヒルズ			海外の老人ホームとの相互交流		
その他	釧路ポタニカルアートの会 賀勢さん			地元の植物や環境を観察して学び、植物細密画を描き、作品を環境保護活動に役立てます	地元の植物や環境を観察して学び、植物細密画を描き、作品を環境保護活動に役立てます	3	
					北海道動物立体折紙の展示		
団体数:22		3	10	22	21		